

# 兵庫県のヒゲナガゾウムシ(1)

(兵庫県甲虫相資料・157)

高 橋 壽 郎

日本産ヒゲナガゾウムシ(Family Anthribidae)の研究は1815年Thunbergにより1新種を記載したのに始る(Nava, Acta. Ups. VII:122, 1815. *Amblycerus japonicus* 但しこの種は1775年Degeerの発表した*Araocerus fasciculatus*のシノニムで抹消される)。その後Roelofsが1879年に5種, Lewisが1種の新種を記載され1891年にD. Sharpが“The Rhynchophorous Coleoptera of Japan, Part. II, Apionidae and Anthribidae”の中で5新種, 46新種をふくんだ日本産のこの仲間の集大成を発表された。

その後湯浅啓温博士による新種発表(応用動物学雑誌, III:21, 1931)があり三輪勇四郎, 中條道夫両博士の目録が発表された(1939)。

戦後になって宇野正芳氏(1950), 常楽武男氏(1952, 1953)によって研究が始められた後主として森本桂博士(1961, 1962, 1978, 1979, 1980, 1981, 1984), 中根猛彦博士(1963), 芝田太一氏(1963, 1969, 1978, 1980, 1981)等々の研究によって多くの種の図説もあればモノグラフ的なものもあり可成りまとまっている。従って同定も或る程度出来るように思われる。

兵庫県産のこの類に就いては従来全般的な報告が全く無いので産出状況を中心にとまとめておき度い。現在の兵庫県に産するヒゲナガゾウムシは40種が記録出来ているがまだまだ調査が足りない様に思われる。今後一層の努力をしなくてはと考えている。

因に日本産のヒゲナガゾウムシ科の数は1981年末で52属152種がリスト出来た(内本州産は35属72種)。1981年の神戸大学での日本昆虫学会第41回大会で森本博士は日本産ヒゲナガゾウムシ科は160種とのべておられまだこの科の日本産は流動的な面を残している(1984年森本博士がまとめられた日本産ゾウムシ上科の目録によると, 55属156種5亜種がリストされていて尚且つChoraginae 亜科では70-90%位がわかっている程度となっている)。

末文にて大変申し訳無いが一部標本の同定を的場績氏にお願いした。厚く御礼を申しあげさせて頂く。

Family Anthribidae ヒゲナガゾウムシ科

## 1. *Apolecta lewisii* Sharp, 1891

クロオビヒゲナガゾウムシ

Sharpにより“Nikko, Kashiwagi, Kurigahara”を産地に記載された(Trans. Ent. Soc. London, 1891:318)。常楽氏は幼虫, 蛹に就いて解説しておられる(Shin Konchu, vol. 5, No10, P.34-35, 1952)。中根博士の図説がある(1963)。

兵庫県下においては山地性になるのか県の中央部から北に分布して南側の平野部とか海岸線ぞいの山地などに見られない。

音水, 赤西, 氷の山あたりでは普通に見られる種である。

産地: 神崎郡大河内町川上〔倉本, 藤原, 1976〕\*。宍粟郡音水(3exs., 13-VI-1958), 赤西(5♂, 3♀, 23-VI-1979)〔畑中, 1975〕。養父郡米の山(lex., 23-VI-1959)。美方郡扇ノ山(鈴木, 1950, 辻, 岸田, 1972, 畑中, 1975, 高橋, 1981)小代谷〔高橋, 1976, 1981〕。

## 2. *Notioxenus wollastoni* Sharp, 1891

チビヒョウタンヒゲナガゾウムシ

Sharpにより“Higo”産で記載された(l. c., P. 327, 1891)。本種も中根博士の図説(1963)があるが県下にはそれ程多くいるように思われぬ。

産地: 川西市能勢妙見山(lex., 30-VI-1980, I, Matoba det.)。Mt. Maya, Kobe〔Morimoto, 1978〕。多可郡鳥羽(2exs., 19-VI-1975, I, Matoba det.)。

## 3. *Deropygus histrio* Sharp, 1891

ヤツボシヒゲナガゾウムシ

Sharpにより“Ichiuchi”を産地に記載された(l. c., P. 326, 1891)。中根博士の図説がある(1963)。県下での記録もほとんどない。赤西溪谷で採集したのみである。

産地: 宍粟郡赤西(3exs., 23-VI-1979)。

\* 産地で〔 〕の中のものは記録からの引用, ( )の中のものは筆者採集, 標本所有のもの。

#### 4. *Araecerus fasciculatus* (Degeer, 1775)

##### ワタミヒゲナガゾウムシ

Thunbergが *Amblycerus japonicus* として日本から記載された種がこの種に当る(1815)。

Degeereの *Araecerus fasciculatus* は India 産で記載されたものである(Ins. V: 276, 1775) (属名は *Curculio* として)。

分布は世界共通種として広く知られている。次のアカアシヒゲナガゾウムシにも割合似ている。

県下では産地が余り知られていないが小さいので見落されているのではないと思われる。

産地: 神戸市鳥原(lex., 10-VIII-1969, lex., 21-X-1975, I. Matoba det. in his Coll.), 丹生山(lex., 18-V-1958)。氷上郡〔山本, 1958〕。

#### 5. *Araecerus tarsalis* (Sharp, 1891)

##### アカアシヒゲナガゾウムシ

Sharpにより“Kobe, Kiga, Miyanoshita, Nikko, Kashiwagi, Chuzenji, Awomori, Fuji”と多くの産地をあげて *Araecerus* 属で記載された。

県下にも広く分布している。

産地: 川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。Kobe〔Sharp, 1891〕。神戸市鳥原(lex., 10-VIII-1969, 3exs., 4-V-1974, lex., 5-1974, lex., 19-V-1974, lex., 21-X-1975, 4exs., 1-V-1977, lex., 9-V-1982, lex., 25-IV-1983, I. Matoba det. in his Coll.)。相生市三濃山(lex., 3-V-1969, lex., 3-V-1974)。宍粟郡原(lex., 11-V-1969)。赤西(lex., 27-V-1979)。豊岡市愛宕山〔高橋, 1975, 1981〕。養父郡水の山〔畑中, 1973, 1975, 高橋, 1981〕。

#### 6. *Choragus compactus* Sharp, 1891

##### キンヘリノミヒゲナガゾウムシ

Sharpにより“Nikko”産で記載された(l. c., P. 323, 1891)。常楽武男氏は浅間高原産で詳しく図説された(虫報, No. 9, P. 6, 1953. *Choragus* 属の各種についてはこの報文に詳しく解説されている)。

中根博士の図説がある(1963)。日本(本州)特産種のようなのである。

県下での記録は余り知られていない。山地性の種のようなのであるが調査を続けなくては行けない。

産地: 宍粟郡音水(lex., 16-VII-1972, I. Matoba det.)。美方郡扇の山〔的場, 1978〕。

#### 7. *Choragus mundulus* Sharp, 1891

##### セスジノミヒゲナガゾウムシ

Sharpにより“Kiso, Kurigahara”を原産地に記載された種である(l. c., P. 324, 1891)。常楽氏は多くの産地(木曾福島, 親山, 浅間高原, 日光, 光徳沼, 富山県大牧温泉)をあげて図説された(l. c., P. 7, 1953)。中根博士の図説がある(1963)。

分布は今の所本州だけのようである。

兵庫県下では従来記録が無かった種である。

産地: 神戸市鳥原(lex., 15-V-1982, lex., 19-1982, I. Matoba det.)。加東郡東条町森(lex., 22-V-1984)。

#### 8. *Anthribus kuwanai* (Yuasa, 1931)

##### タマカイガラヒゲナガゾウムシ

湯浅啓温博士がおオタマカイガラムシ, ナワタマカイガラムシなどに寄生すると東京産で *Brachytarsus* 属で記載された(応用動物学雑誌, 第3巻, 1931)。

森本博士は大英博物館に所蔵される中国・南京産の *A. vandykei* Jordan (Novit. Zool. XXXIII: 383, 1933) の paratype が本種にはかならないとシノニムにされている(Esakia, No. 12, P. 35, 1978)。

成虫は4月ごろより現れ, カイガラムシの雌虫体下の卵を捕食して成長し, 寄生したタマカイガラムシの中で蛹化し, 6月下旬にはタマカイガラムシの中に幼虫が見られ, 7月初旬には成虫が羽化する(竹中, 1975)。

県下での記録が大変少ない。

産地: 宍粟郡音水(lex., 20-VII-1969)。多紀郡小金山岳〔畑中, 1975〕。氷上郡〔山本, 1958〕。

#### 9. *Anthribus niveovariegatus* (Roelofs, 1879)

##### イボタロウヒゲナガゾウムシ

Roelofsが“Japan”産で *Brachytarsus* 属で記載された(Ann. Ent. Belg., XXII, Compt. Rend. V, 1879) 種である。

県下での産が案外知られていない。筆者は神戸市内鳥原で枯木を叩いて落ちて来たのを採集している。

産地: 洲本市先山〔堀田, 1979〕。神戸市鳥原(lex., 9-V-1984)。美方郡扇の山〔的場, 1978〕。

#### 10. *Paramesius tessellatus* (Bohemann, 1829)

##### マダラヒゲナガゾウムシ

Bohemannにより *Brachytarsus* 属で記載された種である(Nouv. Mem. Mosc.: 119, 1829)。日本からはSharpが“Hitoyoshi, Kashiwagi, Nikko, Kurigahara, Junsai”を産地に記録された(l. c., P. 322, 1891)。

ヨーロッパから日本にかけて広く産する種のようなであり, 兵庫県下にも広く産するようである。

産地：川辺郡猪名川町槻並(lex., 2-VI-1978, I, Matoba det. in his Coll., 2exs., 2-VI-1978, lex., 4-V-1979)。川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕, 神戸市烏原(lex., 13-V-1982, I, Matoba det.), 藍那(lex., 10-V-1979, lex., 9-VI-1979, 2exs., 16-V-1979), 相生市三濃山(lex., 3-V-1969)。佐用郡大撫山(lex., 25-V-1976)。宍粟郡坂の谷(2exs., 22-VI-1979)。養父郡関宮町出合〔高橋, 1976, 1981〕, 氷の山〔高橋, 1976, 1981〕。美方郡扇ノ山〔的場, 1978〕。

#### 11. *Euparius oculatus* (Sharp, 1891)

キノコヒゲナガゾウムシ

Sharp により“Osaka, Junsai, Otsu”を産地に *Caccorhinus* 属で記載された(l. c., P. 321, 1891)。

体が全く黒く毛も暗色のものを var. *niger* Nakane と云う(Sci. Rep. Saikyo Univ. 2(A):39, 1955)。この変種は割合いるようである。

シュタケ等の多孔菌を食する。県下では大変多くいる種である。

産地：川西市能勢妙見(lex., 30-VI-1982), 笹部〔仲田, 1982〕, 神戸市御影〔関, 1934〕, 烏原(lex., 27-V-1982, lex., 22-VIII-1982, lex., 23-VI-1982, lex., 28-VI-1982, lex., 5-VI-1982, lex., 16-K-1982), 藍那(4exs., 15-V-1978, lex., 14-VI-1978, 3exs., 29-VI-1978), 押部谷木見(5exs., 23-V-1980), 須磨鉢伏山(3exs., s-VIII-1975)。明石市明石公園(26exs., 3-VI-1977, 3exs., 10-VI-1977, 2exs., 24-VI-1978)。加西市畑(lex., 23-V-1974)。多可郡加美町三谷(3exs., 28-K-1974, 2exs., 26-VIII-1974, lex., 13-K-1975)。相生市三濃山(lex., 6-VI-1973)。城崎郡香住町小原〔高橋, 1981〕。美方郡扇ノ山〔鈴木, 1960, 辻, 岸田, 1972, 畑中, 1973, 1975, 高橋, 1975, 1981, 的場, 1958〕。

#### 12. *Euparius tamui* Nakane, 1963

オビキノコヒゲナガゾウムシ

中根博士によって京都府の冠鳥産で記載された種である(Fragm. Coleop. Pars. 8:31, 1963)。同博士の図説がある(1963)。

県下の記録は次のものを知るのみである。

産地：多紀郡篠山町〔畑中, 1975〕。

#### 13. *Ozotomerus japonicus* Sharp, 1891

ウスモンツツヒゲナガゾウムシ

Sharp により日本産で記載された(l. c., P. 320,

1891)。

比較的広く分布しているようだが個体数はそれ程多くない。

産地：川西市笹部〔仲田, 1970, 1978〕, 神戸市烏原(lex., 13-V-1980, lex., 25-V-1980, lex., 24-VI-1982)。加西市畑(2exs., 13-VI-1974)。氷上郡妙高山〔山本, 1958〕。養父郡大屋町田淵山(lex., 5-VIII-1975, M. Yuma leg.), 氷の山〔畑中, 1973, 1975, 高橋, 1981〕, 関宮町出合〔高橋, 1976, 1981〕。美方郡扇ノ山〔的場, 1978〕。

#### 14. *Basitrapis nitidicutis* Jekel, 1855

マダラフトヒゲナガゾウムシ

Jekel が“Java, India”産で記載した種である(Ins. Sand. 1:92, 1855)。日本からは Sharp が“Nikko”産で *B. dispar* として記載された種(l. c., P. 328, 1891) がそれに当る。

県下ではやや山地性のようであるが個体数は必ずしも多いように思われない。

産地：城崎郡三川山〔高橋, 1981〕。養父郡氷の山(lex., 25-VI-1955, 2exs., 27-VI-1957)〔高橋, 1981〕。美方郡扇ノ山〔鈴木, 1960, 辻, 岸田, 1972, 畑中, 1973, 1975, 高橋, 1981〕。

#### 15. *Platystomos sellatus* (Roelofs, 1879)

シロヒゲナガゾウムシ

Roelofs により日本産で *Anthoribus* (*Anthribius*) 属で記載された(Deut. Ent. Zschr., XXIII:302, 1879)。

Sharp が“Yokohama, Kobe, Kurigahara, Junsai”産で記載された *Anthoribus daimio* なる種も本種のことである(l. c., P. 319, 1891)。

県下では分布も広く産するようである。個体数はやや少いように思われる。

産地：川辺郡猪名川町木間生〔仲田, 1978〕。川西市笹部〔仲田, 1978〕。Hyogo〔Morimoto, 1979〕。Kobe〔Sharp, 1891〕。神戸市御影〔関, 1934〕, 烏原(1♂, 1♀, 10-VIII-1974, 1♂, 17-VI-1980), 妙法寺(2♂, 2-VIII-1978)。宍粟郡音水(lex., 20-VI-1959)。氷上郡春日町黒井〔高橋, 山本, 1962〕。城崎郡香住町上岡〔高橋, 1975, 1981〕。

#### 16. *Phloeobius stenus* Jordan, 1923

ササメマルヒゲナガゾウムシ

Jordan が“Shanghai”産で記載された種である。

(Nov. Zool. XXX:173, 1923)。

柴田太一氏が大阪の岩湧山産, 京都の芹生, 花背産でもって *P. stenoides* と命名記載された種(Ent. Japan,

vol. 15, No 2: 45-46, pl. 6, f. 5, 6, 1963) はこの種のシノニムになる。

森本桂博士は詳しく図説しておられる (Esakia, No 14: 8, photo, E, 1979., 原色日本甲虫図鑑, N, pl. 45, f. 26, p. 231, 1984)。

筆者がかつて神戸産で *P. altermanus* (Wiedemann, 1816) ミカンヒゲナガゾウムシとして記録した種 (きべりはむし, vol. 11, No 1, P. 24-25, 1983) は本種と同定するのが正しいようである。県下から今迄記録の無かった種であり採集場所は笹藪のある場所であった。但しこの標本, 本種にしては大きく (♂で体長 15 mm もある), 触角先端は強く曲っている。だが背面の状況はやはりササセマルヒゲナガゾウムシであると考えられる。尚本種の生態の一部については行徳直己氏が報告しておられる (北九州の昆虫 vol. 14, No 1, PP. 25-26, 1967)。

産地: 神戸市鳥原 (1♂, 26-VII-1982)。

#### 17. *Phlocobius gibbosus* Roelofs, 1879

セマルヒゲナガゾウムシ

Roelofs により "Japan" を産地に記載された種である (Ann. Soc. Ent. Belg., XXII, Compt. Rend.: N, 1879)。

比較的大きな種であるが県下での産はそれ程多く記録されていない。

産地: 川辺郡猪名川町三草山麓 (lex., 5-VII-1980)。川西市大和, 笹部 (仲田, 1978)。多紀郡 (鈴木, 1961)。氷上郡 (山本, 1958)。城崎郡三川山 (高橋, 1981)。

#### 18. *Xylinada striatifrons* (Jordan, 1895)

ナガフトヒゲナガゾウムシ

Jordan により "Khasi, Hills, Assam" を産地に *Xylinades* 属で記載された (Stett. Ent. Zeit., Lvl: 260, 1895)。

日本からは森本博士が和歌山県大杉谷産 1♂ を図示されたのが初めてであろうと思われる (Esakia, No 14, P. 13, photo, N, 1979., 1984 年には原色で図説しておられる)。その後京都福知山 1♂ (昆虫と自然, vol. 15, No 13, P. 29, 1980), 福井市足羽山 1♀ (昆虫と自然, vol. 15, No 3, P. 18, 1980) の記録がある。兵庫県からは沢田佳久氏によって初めて図示された (昆虫と自然, vol. 17, No 4, P. 35, 1982)。さらに妹尾俊男氏は従来の分布をまとめられると共にカオスジヒゲナガゾウムシの和名を与えて記載もされている (越佐昆虫同好会々報, 第 57 号, 1984)。それによると本種の日本での分布地は兵庫, 和歌山, 京都, 岐阜, 福井, 新潟の府県になる。国外ではトンキン, 台湾, アッサムが知られている。

産地: 養父郡関宮町 (沢田, 1982)。

#### 19. *Endreytes gotoi* Shibata, 1969

チビクビボンヒゲナガゾウムシ

芝田太一氏により後藤光男氏が能勢笹部で採集された 3♂, 3♀, 更に大阪の千里山産の 1♂ で記載された種である (Ent. Rev. Japan, XXII: 28-29, pl. 4, fig. 7&8, 1969)。その後森本博士は九州も記録しておられる (Esakia, No 15, P. 20, Photo, J. 1980., 1984 年原色の図説もある)。兵庫県下からは上記記録以外いまの所知られていない。

産地: 川西市笹部 (芝田, 1969)。

#### 20. *Sympaector rugirostris* (Sharp, 1891)

オオマダラヒゲナガゾウムシ

Sharp により "Nikko, Chuzenji, Junsai" を産地に記載された種である (l. c., P. 307, 1891)。中根博士の図説がある (1963)。

兵庫県からは次の記録を知るのみである。

産地: 美方郡扇ノ山 (畑中, 1973, 1975)。

#### 〔付 記〕

前報文 "兵庫県の甲虫 (2)" で次の種が県下に記録されているのを筆者の不注意で見落していたので此処に追加させて頂きたい。

*Theca hilleri* Schilsky チビケシバンムシ

産地: 出石郡出石町小坂 (高橋, 1965)。

尚クリイロマルチビシバンムシ神戸市鳥原で lex. 採集出来ている (21-V-1984)。